

藤倉コンポジット株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7
TOC有明イーストタワー10F
TEL 03-3527-8111 FAX 03-3527-8330
お問合せ先:管理本部 CSR推進室
<https://www.fujikuracomposites.jp/company/>



FUJIKURA COMPOSITES CSR REPORT 2022

CONTENTS

- 01 目次、編集方針、事業概況、事業内容、事業所
- 02 企業理念・経営理念・事業理念・品質方針
- 03 特集 藤倉コンポジットは120周年を迎えました
- 05 藤倉コンポジットがささえる5つのこと
- 07 トップメッセージ
- 09 コーポレート・ガバナンス
- 11 藤倉コンポジットの環境活動
- 15 社会性報告
- 21 海外ネットワーク

編集方針

本報告書は、藤倉コンポジット株式会社の理念と事業の現状、およびCSR活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進することを目的に発行しています。

- 報告対象範囲／藤倉コンポジット株式会社
- 報告対象期間／2021年4月1日～2022年3月31日
※一部、対象期間外の取り組みも紹介しています。
- 報告書発行時期／2022年9月
(次回発行予定2023年9月)

事業概況

社名 藤倉コンポジット株式会社
 本社 東京都江東区有明3-5-7
 TOC有明イーストタワー10F
 創業 1901年10月
 資本金 38億429万円

事業内容

各種工業用ゴム部品の他、空圧制御機器、除振台およびその周辺機器、印刷機材、電気・電子機器、救難救命具など産業資材、ゴルフ用カーボンシャフトの製造販売など様々な分野で幅広く事業を展開しています。

事業所

- 本社
〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明
- 大阪支店
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4
- 勝田営業所
〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島2-6-21
- 名古屋営業所
〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-40
- 岩槻工場・エンジニアリングセンター
〒339-8510 さいたま市岩槻区上野6-12-8
- 原町工場
〒975-0027 福島県南相馬市原町区上北高平字植松268
- 加須工場
〒349-1158 埼玉県加須市新利根1-4-4

企業理念

Corporate philosophy

経営理念

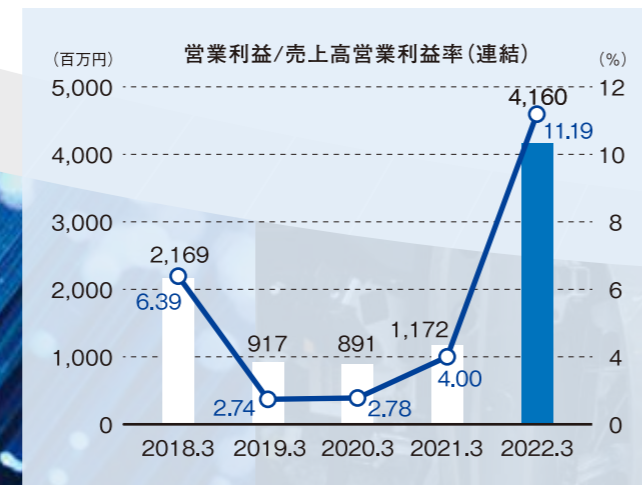
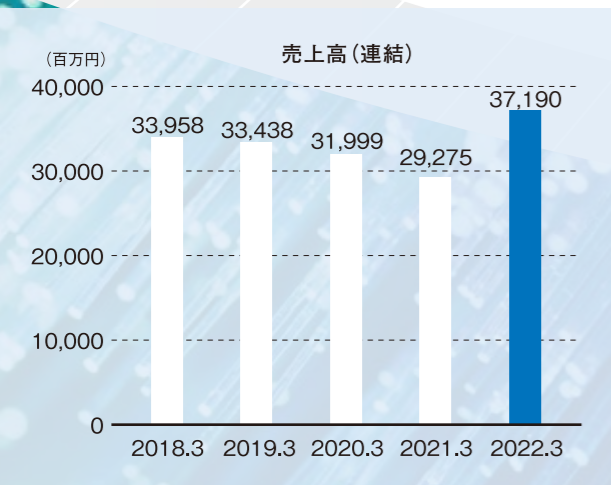
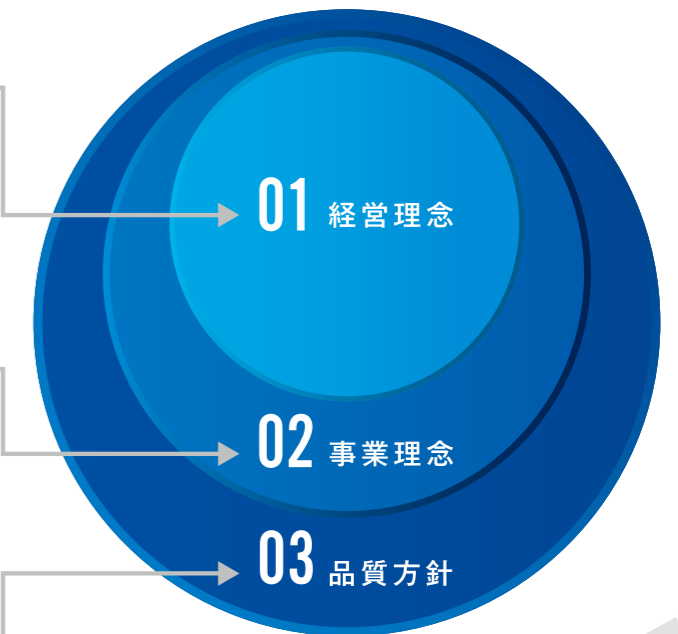
技術・創造・いきいきコミュニケーションを大切にし、人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します。

事業理念

わたしたちはお客様と相互に技術力を高めあいながら、設計技術・複合化技術・加工技術により新たな可能性を引き出し、高性能製品を提供します。

品質方針

「消費者重視」・「製品安全の確保」の為に、「品質至上」に徹し、優れた製品を提供し、社会に貢献します。常にお客様の満足する製品の提供を目的とします。品質マネジメントシステムの有効性を維持し、目標達成への行動を通じて、継続的な改善を行います。



特集 藤倉コンポジットは120周年を迎えました

1901年10月
松本留吉により、
藤倉電線護謨合名会社を設立、
電線、ゴム引防水布の
製造を開始。

1910年3月
電線部門と
ゴム引防水布部門を分離、
藤倉合名会社
防水布製造所を設立。

1917年6月
東京都品川区五反田に
五反田工場を開設。

1920年4月
株式会社に改め
藤倉工業株式会社を設立。
軟式飛行船やパラシュート、
飛行機用タイヤなどの製造を手掛ける。

1948年10月
藤倉ゴム工業株式会社に
商号変更。

1949年5月
東京証券取引所に上場。

1949年12月
自動車用タイヤチューブの
製造販売開始。

1952年11月
軽登山靴
「キャラバンシューズ」を開発。

1955年6月
救命いかだ、
救命胴衣製造販売を開始。

1973年11月
船舶の大型化にともない
垂直降下式乗込装置(シューター)を開発。

1974年5月
炭素繊維を使用した
ゴルフカーボンシャフトFlyrun
(初のオリジナルブランド)の
発売を開始。

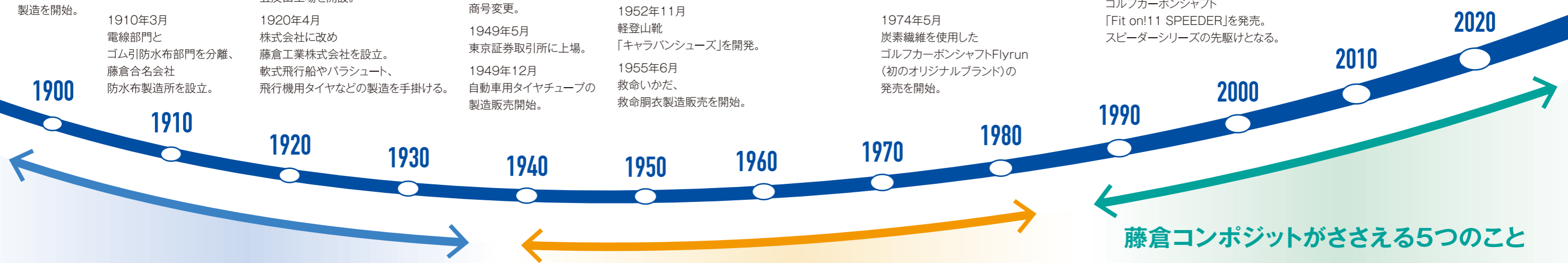
1996年5月
ゴルフカーボンシャフト
「Fit on!11 SPEEDER」を発売。
スピーダーシリーズの先駆けとなる。

2011年3月
東日本大震災で原町工場、
小高工場に甚大な被害を受ける。
小高工場を休業。

2016年9月
被災企業としての経験を活かし、非常用
マグネシウム空気電池「Watt Satt」を開発、販売。

2019年4月
藤倉コンポジット株式会社に商号変更。

2019年5月
非常用モバイル充電器「アクアチャージ」発売。



創業期

時代のニーズに応じた多様な製品を開発

藤倉コンポジットがささえる5つのこと



飛行船 雄飛号



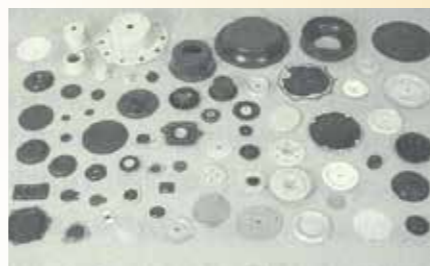
防毒面

1901年、松本留吉により藤倉電線護謨合名会社を設立、電線事業とゴム引防水布事業により、電線、ゴム引防水布の製造を開始しました。その後電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立し、軟式飛行船やパラシュート、飛行機用タイヤなどの製造を手掛け、戦争の激化とともに軍需用品の供給により大きく拡大していきました。



合成皮革ゴールドキッド

戦後、民需へ転換し、焼け残ったゴム引防水布設備でレインコートや合羽、ゴムホース、各種タイヤチューブなどを生産。1948年に藤倉ゴム工業に改称し、農業用ビニールや合成皮革製品、工業用ゴム製品など次々と開発しました。ゴムと布、ゴムと樹脂、カーボンと金属など異素材を組み合わせるコンポジット技術により、数々のヒット商品を生みだしました。国産初の合成皮革「ゴールドキッド」やそれまでの革靴より安くて軽い軽登山靴のキャラバンシューズなど一大センセーションを起こしました。



タイヤフラム



垂直降下式シューター



自動車部品や住宅設備部品、電力をはじめとするインフラに使用される特殊材料部品、医療用シリコンゴムなど、多様な産業に多くの製品を提供しており、また、長年の製造経験に基づく引布ゴムを加工した救命いかだ、救命胴衣、降下式乗込装置などは多くの船舶から信頼をいただいています。1974年に開発したゴルフカーボンシャフトは現在では多くのゴルファーに愛される人気商品となり、当社の主力商品となっています。

初代カーボンシャフト「Flyrun(フライラン)」の誕生秘話

現在、多くのゴルファーに愛用されている当社のカーボンシャフトの歴史は、1973年、当時の会長である松本重男が、米国からカーボンシャフトを持ち帰り、それを見本に手作りしたことに始まります。

松本は、渡米した際に観た太平洋マスターズで、優勝した選手が当時めずらしかったカーボンシャフトを使用していたのを見て、シャフトメーカーに技術提携を申し込みましたが断られます。諦めきれずにシャフトを購入して持ち帰り、当社の技術陣に制作を命じました。

ところが技術陣たちは、どんな作り方をしようかわからず、何もないところから技術を組み立てる一からのスタートでした。そのため、釣り竿メーカー、鉛筆メーカーなどに足を運びヒントを掴み、それに独自のアイデアを加えながらひとつひとつ工程を確立するという気の遠くなる作業でした。

カーボンシャフトの素材はロケットなどに使用される炭素繊維強化複合

材料で、軽量で高い強度を有し優れた耐熱材料でしたが、国産化にあたっては、その材料が非常に高価なものであることも開発における問題点でした。

様々な難関の中、開発グループの努力と創意により徹底的に研究を重ねた結果、1年足らずで「飛距離」と「方向性の安定」を主眼においたカーボンシャフト「Flyrun」の開発に成功、1974年5月大々的に新製品の発表会を開催するに至りました。

その後、1997年に発売した「元祖 Speeder シリーズ」が多くのPGAツアープロに使用されたことにより爆発的な人気となり、第二世代「Speeder Evolutionシリーズ」を経て、2021年から現在の第三世代「Speeder NXシリーズ」を発売し、シリーズの総販売本数200万本を超える大ヒットとなっています。



藤倉コンポジットがささえる5つのこと

私たちは卓越した複合化技術で

豊かなくらしをささえるグローバルカンパニーをめざします

RUBBER × COMPOSITES = 豊かさ

様々な環境には見えていない、基盤となるものが必ずあります。
藤倉コンポジットの私たちは、その多くの環境をささえ、豊かさを生み出し、
そしてより良い環境へと進歩し続けています。
藤倉コンポジットがささえる5つのコンテンツをご紹介します。

当社は、創業者・藤倉善八の遺志を継承した松本留吉が、1901年(明治34年)に藤倉電線護謄合名会社を設立したことに始まります。藤倉善八の甥・岡田顕三が1896年(明治29年)に渡米し、ゴム引防水布の製造技術を修得して帰国。日本で最初のゴム引布工場をスタートさせました。ゴム引布は、工業用ゴム製品や電気絶縁材料など、今日の市場で流通している多くの商品にも受け継がれており、1世紀以上にわたって社会の発展に大きく貢献しています。現在では、産業用資材からゴルフシャフトに至るまで、複合化技術を用いた様々な製品の開発を行っています。

“エネルギー”をささえる

「発電」「送電」「蓄電」に関わる製品を製造し、“エネルギー”をささえています。



非常用マグネシウム空気電池



災害時の非常用電源。塩水を入れるだけで発電します。同時に5台のスマートフォンを充電することが可能です。

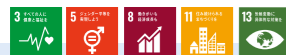
風力発電機用ブレード保護シート



風力発電機のブレード表面を、飛来物や電(ひょう)、砂などとの衝突による損傷から長期にわたり保護します。

“くらし”をささえる

「ライフライン」「住宅」「印刷」「音響」に関わる製品、材料を提供し、“くらし”をささえています。



住宅機器用部品



生活を営むうえで欠かせない、ガス・水などを制御する機器の心臓部で使用されています。安全が絶対条件になるような住宅機器の用途で高い市場実績を誇っています。

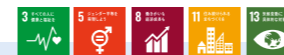
オフセット印刷用ブランケット



新聞やチラシなどオフセット印刷をする際に使用されています。

“いのち”をささえる

「医療」や「救命」に役立つ製品を製造し、“いのち”をささえています。



膨脹式救命いかだ



各種船舶に搭載義務のある海上避難設備です。常温で投下作動後10~25秒程度で完全に膨脹し、乗員が安全に乗込むことができます。

レギュレータ



感度、安全性ともに優れた特性をもつ減圧弁です。在宅用医療機器などに用いられています。

“ものづくり”をささえる

「自動車」「鉄道」「産業用機器」などに欠かせない機能部品を製造し、“ものづくり”をささえています。



自動車用部品



エンジン、ブレーキ、吸排気といった最も重要なモジュールを支える機能部品を数多く製造しています。様々な要請にお応えして、高品質の製品を提供しています。

BFシリンダ



駆動部にBFダイヤフラムを採用した国内唯一のシリンダ(制御装置)です。低摩擦で滑らかなストロークで、微かな圧力変動に対して感度よく作動します。

“レジャー”をささえる

「ゴルフ」「アウトドア」を通して、“レジャー”をささえています。



ゴルフシャフト



カーボン(炭素)繊維で作られたゴルフ用シャフト。振動を吸収し、インパクトの際の衝撃を和らげます。大人気Speederシリーズは、多くのゴルファーに親しまれています。

登山靴



「軽くて履きやすく歩きやすい」キャラバンシューズ。1954年の誕生以来、多くの登山愛好家に親しまれ続けています。

その他の製品情報はこちらをご覧ください ⇒ <https://www.fujikuracomposites.jp/activity/>



変化にチャレンジし、「変わる」から「変える」へ



創立120周年にあたって

まず、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方とご家族の皆様にお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々にお見舞い申し上げます。また、医療従事者の皆様や社会生活の維持のためにご尽力いただいている全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスは世界中で感染拡大を繰り返し、私たちの日常を一変させました。大都市圏を中心に緊急事態宣言やまん延防止措置が実施されるなど、一時は経済活動が大幅に抑制されることとなりました。しかしながら、当社は、これまでの経験を活かし、早急な危機管理体制にシフトし、全社をあげての経費圧縮、原価低減活動により、損失を最小限に食い止めることができました。

2021年度は、自動車市場の回復と半導体市場の活況、ゴルフ市場の好調によって当社事業は大幅な回復を果たし、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益において過去最高を更新することとなりました。

1901年に日本初のゴムと布を掛け合わせた「ゴム引防水布」を開発し、その後の時代の変遷の中、ゴムと布、金属や樹脂といった異材を複合させる「複合化技術」によって様々な製品を世の中に提供してきました。当社が今日を迎えられたことは、ひとえに120年もの長きに渡り、当社を支え、育ててくださった多くの皆様のお力によるものと、心より感謝申し上げます。

今後も、世の中のニーズを的確に読み取り、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいりたいと考えております。

当社のESGに対する考え方について

当社は「くらし」「ものづくり」「エネルギー」「いのち」「レジャー」といった5つの分野をはじめ、様々な分野で「ささえる」をキーワードに、事業を展開しています。今日世界は、環境問題をはじめ、人権尊重、従業員の健康・労働環境への配慮など、様々な問題を抱えています。



当社が社会に提供させていただく幅広い製品、その製造過程で発生する様々な問題、また世界各地で働く多様な従業員、当社に関わる人々の全ての思いを大切に、経営することが重要と考えています。

当社は製造業として、生産活動において、また、製品を通して、様々な社会問題の解決に取り組んでいます。生産活動における廃棄物、VOC、CO₂の削減はもとより、自動車の燃費向上や蒸散ガス低減など、当社の自動車関連部品は、気候変動に対する環境負荷低減に貢献しており、風力発電ブレード保護シートは、メンテナンス周期の長期化を推し進め、再生可能エネルギーの普及に貢献します。また、事業強化中の医療機器部品や救命いかだ、医療用陰圧テントなどは、直接皆様の命を守る重要な役割を果たし、ゴルフやノルディックウォーキングは、身体だけでなく心の健康にも寄与し、皆様の豊かさにお役立ていただいています。労働環境の改善に向けても、2020年から健康経営プロジェクトを立ち上げています。

これからも人々の安心・安全をささえ、社会に寄り添う

企業として、広く環境への配慮、社会問題への解決、ガバナンスの強化に取り組んでまいります。

変化にチャレンジ、「変わる」から「変える」へ

現在当社は、2021年3月期から5ヶ年の第6次中期経営計画を発表させていただいております。新型コロナウイルス感染拡大を受け、経営環境の変化、世界経済回復までの長い道のりを考慮し、通常3ヶ年の経営計画を5ヶ年とし、新たなスタートを切りました。2021年3月期から2023年3月期までの3ヶ年を世界経済が完全に以前の水準に戻るまでの回復期、2023年3月期から2025年3月期までの3ヶ年を回復から成長へ転換する成長期と位置付け、これまでと変わらない真摯な気持ちで、様々な変化にチャレンジし、「変わるから変えるへ」をスローガンに、全社一丸となってまい進してまいります。

2022年9月

コーポレート・ガバナンス

当社では、事業の規模や性質に適応した形で、業務の効率性・透明性・公正性を高めるとともに、皆様のご信頼に応えつつ、企業価値の持続的な向上を掲げ、コーポレート・ガバナンス体制の強化に努めています。

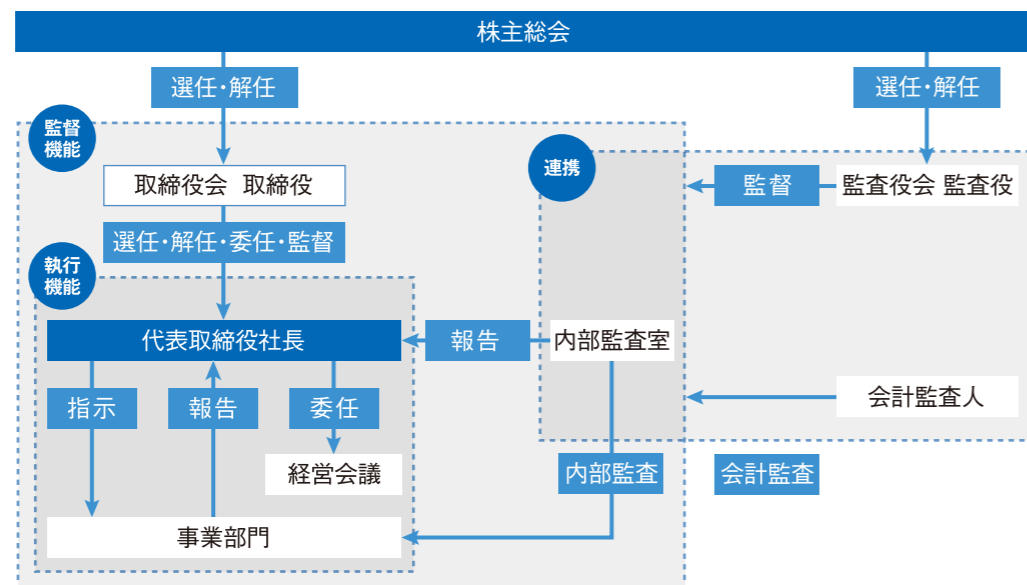
基本的な考え方

当社では、「技術・創造・いきいきコミュニケーションを大切に、人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します」との経営理念のもと、事業理念、定款、コーポレート・ガバナンス方針、「FUJIKURA COMPOSITES 行動規範」を柱として、コーポレート・ガバナンスの充実に努め、公正で健全な経営により、長期的かつ安定的に発展していくことをめざしています。

適正・迅速な意思決定と事業の運営、ステークホルダーとの良好な関係、法令順守にあわせ、職務の枠にとられない幅広い観点からの業務状況の把握と監督、一層の経営資源の有効活用といった形で経営の効率性、透明性を高めています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、当社の企業価値の向上におけるコーポレート・ガバナンスの重要性と当社の規模や事業の性質に鑑み、効率性、透明性、公正性を確保するために実効性のある体制として、監査役会設置会社の形態をとりつつ、一定の独立性を有し、かつ当社の事業環境、経営、企業会計について、十分な見識を有する社外取締役や社外監査役をそれぞれ取締役会と監査役会のメンバーに加えて、意思決定や業務執行の透明性に配慮した体制としています。



内部統制システム

当社は、経営の適法性・健全性・透明性を確保し、経営理念を実現させるため、内部統制システムを策定しています。また、本システムは企業の存続と価値の向上に重要であると考え、業務の効率性・透明性・公正性において適切なシステムの構築と運用に努めています。業務の執行にあたっては、内部統制の基本方針に基づいて予め定められた意思決定ルールに則り、内部統制の基本方針、経営方針および計画などに従い事業計画を策定しています。尚、効率的な事業運営を行うため、業績管理を徹底し、常時状況を把握し、必要な修正を行っています。リスク管理においても、重要なリスクの継続的な識別、分析、評価、対応策などの検討を行い、横断的かつ統合的にリスクマネジメントを行っています。

コーポレート・ガバナンスの詳細はこちらをご覧ください。⇒
<https://www.fujikuracomposites.jp/ir/governance/>



リスク管理体制

当社では、企業価値の向上と企業の社会的責任を果たすため、代表取締役社長を統括責任者とするリスクマネジメント委員会が、毎事業年度、当社グループにおける様々なリスクを洗い出し、グループ横断的にリスクの継続的な識別、分析、評価、対応策の検討および検証を行っています。

また、事業、災害、品質、環境、安全衛生、コンプライアンスなどを管掌する部門および専門委員会が、部門責任者・リスクマネジメント担当者と協力し、リスクマネジメント委員会の管理のもと、リスク低減に関する施策の実行と検証を行っています。

コンプライアンスの推進

1. コンプライアンス推進体制

コンプライアンス推進に関する事項を審議する機関として「コンプライアンス推進委員会」を設置し、年間活動計画の策定や違反事案が発生した場合の再発防止策などを検討しています。

2. FUJIKURA COMPOSITES 行動規範

当社ではコンプライアンスの行動指針として、「FUJIKURA COMPOSITES 行動規範」を策定し、従業員が判断基準とできるよう日常業務での具体的な事例における問題点・留意点や関連法令などをまとめ、社内教育などで活用しています。

3. 研修・教育

新入社員研修や階層別研修において、コンプライアンス教育を行い、コンプライアンス意識の向上を図っています。

4. 内部通報制度

当社では、不正行為の未然防止、早期発見および是正のため、内部通報制度やハラスメント相談窓口などを設け、社内外を問わず誰でも利用できる体制を整えています。

藤倉コンポジットが注力する7つのSDGs

当社では、2021年2月にSDGs推進委員会を発足させ、委員会を構成する若手メンバーを中心に、SDGsへの取り組みを進めています。委員会では、当社の「5つのささえる」を通じて、解決すべき優先課題について話し合いSDGsの17のゴールのうち、7つのゴールを優先課題として設定しました。環境負荷低減活動といった、かねてからの当社の取り組みに加え、優先課題解決に向けた目標を新たに具体化・設定しつつ、KPIへの統合を進めています。

藤倉コンポジットが注力する7つのSDGs目標

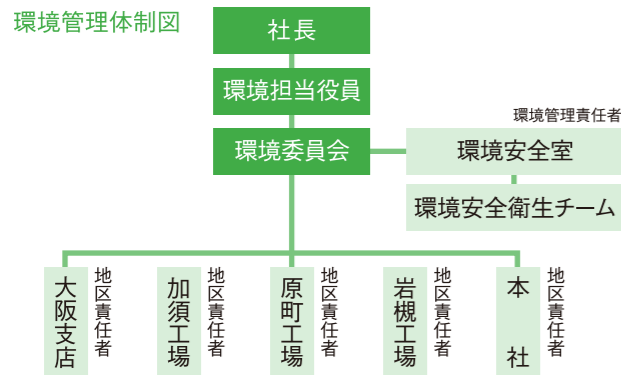
3 すべての人に健康と福祉を	7 再生可能エネルギーを拡大する	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任、つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を
健康経営 スポーツエールカンパニー 医療機器部門 ゴルフシャフト、ノルディックウォーク、スポーツ吹き矢	電気自動車 ガス・電気・電力関連品 省エネ、再生可能エネルギー 現地調達	安全衛生 長時間労働削減、テレワーク 雇用促進、高齢者、障害者雇用 従業員教育	半導体関連製品 自動化 資源利用効率の向上	工業用ゴム部品 UV印刷 いかだ 廃棄物削減	廃棄物・化学物質削減 不良低減	CO ₂ 排出削減 不要低減 災害対策製品

藤倉コンポジットの環境活動

企業の事業活動は、地球からの恵みを土台にすることで成立していますが、その地球の環境を守る活動は全ての企業の責務となっています。当社は、そのことを常に認識し、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいます。

環境管理体制

社長および環境担当役員をトップとする環境委員会を設置し、各地区の責任者が環境保全活動を管理・運営し、環境委員会に報告する体制を整えています。



ISO14001 認証取得状況

事業所・工場	所在地	認証取得年月日	審査機関
本社	東京都江東区	2004年1月26日	LRQAリミテッド
原町工場	福島県南相馬市原町区		
岩槻工場	埼玉県さいたま市岩槻区	2005年7月9日	
大阪支店	大阪府大阪市北区	2007年1月26日	
加須工場	埼玉県加須市	2013年1月26日	

環境方針 (労働安全衛生方針を含む)

- 全ての事業活動において環境・労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、継続的に改善を行い環境負荷軽減、汚染の予防及び労働安全衛生維持向上に努めます。
- 全ての事業活動における環境側面及び危険源の特定を行います。そのためにはその存在を認識し、その特性を明確にするプロセスを構築し、是正・予防に努めます。
- 環境負荷軽減及び安全衛生の目標と改善計画を文書化し、その実施状況を確認し、年度毎に見直しを行います。
- 環境及び労働安全衛生関連の法律、条例、協定及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 環境・労働安全衛生方針を組織で働く人又は組織のために働くすべての人に周知し、環境保全及び労働安全衛生への意識を高めます。
- 環境・労働安全衛生方針を広く一般に開示します。

環境目標と実績

当社は主に以下に掲げるテーマで環境負荷低減活動を推進しています。2021年度目標は、概ね達成しました。引き続き、2022年度も目標達成をめざして積極的に環境負荷低減活動に取り組んでいきます。

テーマ	2021年度目標	実績	2022年度目標
最終処分量(産業廃棄物)の発生抑制	2005年度比95%以上削減	99.1%削減率 ◎	2005年度比95%以上削減
CO2排出量の削減(地球温暖化の防止)	2013年度比46%以上削減(2030年度までの目標)	15.7%削減率 活動計画中	2013年度比46%以上削減(2030年度までの目標)
VOC(揮発性有機化合物)排出量の削減	2000年度比50%以上削減	76.9%削減率 ◎	2000年度比50%以上削減

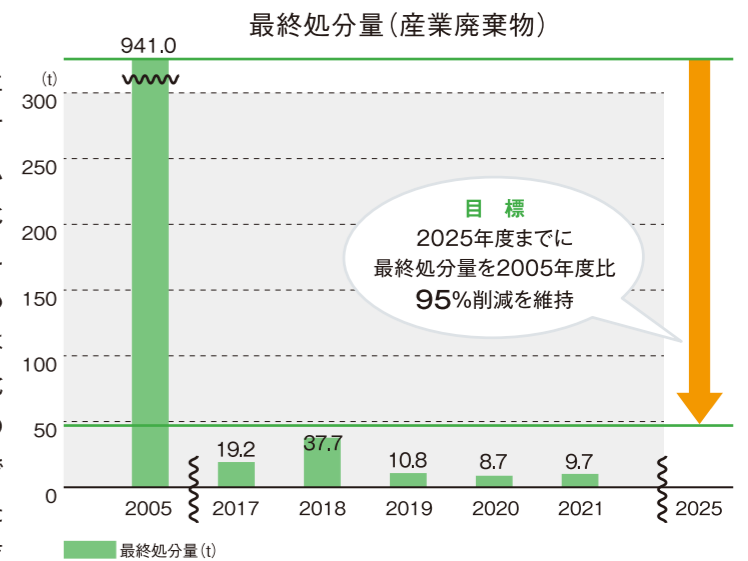
※表中の実績値は、国内3工場の合計値。
 ※CO2排出量の削減目標は、一般社団法人日本ゴム工業会の自主行動計画による(2022年1月6日付)。

環境負荷低減活動

環境負荷低減活動は、主に産業廃棄物の最終処分量、地球温暖化防止のCO2の排出量、光化学スモッグの原因となるVOC(揮発性有機化合物)の排出量の削減を推進しています。また、削減目標値は当社が加盟している一般社団法人日本ゴム工業会の指針に従っています。

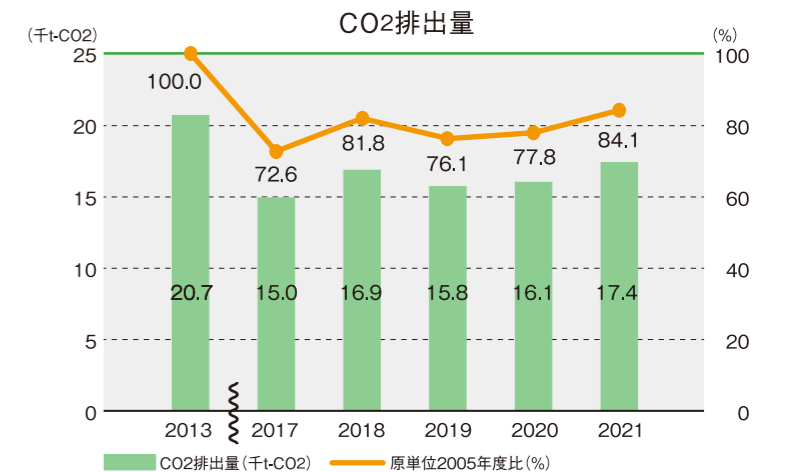
最終処分量(産業廃棄物)の削減

一般社団法人日本ゴム工業会の削減目標は「2025年度までに2001年度比最終処分量を95%以上削減」ですが、当社は2005年度より集計を開始したため、日本ゴム工業会の了承を得て、「2025年度までに2005年度比最終処分量を95%以上削減する」を目標としています。ここ5ヶ年では2018年度に中国の廃プラ輸入禁止の影響もあり、最終処分量が増加する結果となりましたが、その後は3R活動=総発生量の抑制(Reduce)、再利用化(Reuse)、再資源化(Recycle)の強化、リサイクル率の向上により減少に転じています。2021年度は前年度比で生産量が増加したことにより、最終処分量は増加しました(前年比0.11%増)が、目標は達成しています。2022年度も最終処分量のさらなる削減に取り組んでいきます。



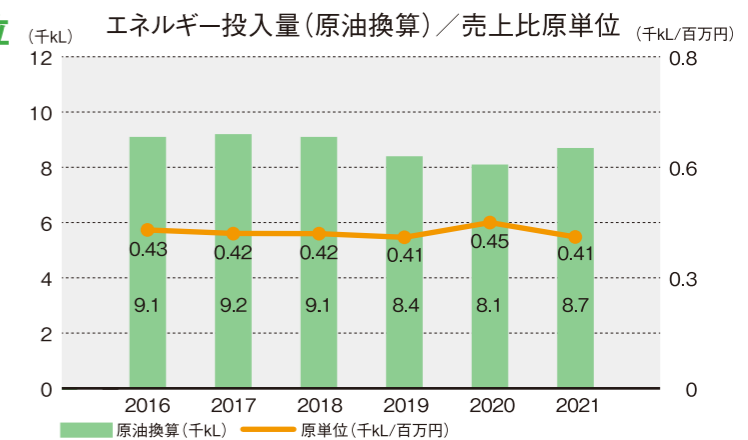
CO2排出量の削減(地球温暖化の防止)

2021年度の温室効果ガス(CO2)排出量は前年度比6.3%増の17,407t-CO2でした。当社は、一般社団法人日本ゴム工業会の中長期目標「2030年度に2013年比で46%削減」で取り組みます。現在、具体的な方策の検討を行っています。



エネルギー投入量(原油換算)/売上比原単位

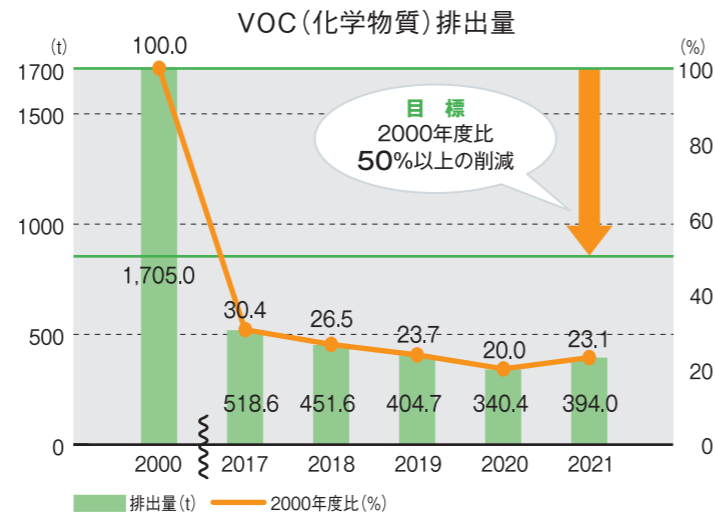
2021年度は、生産金額が前年度に比べて増加し、エネルギー投入量(原油換算量)も増加となりましたが、売上比原単位では前年度比で減少しました。結果として2021年度の売上比原単位は、前年度比1%以上削減の目標を達成することができました。ボイラーの効率運転や省エネ機器への交換設置、照明のLED化などに加え、工場で使うエネルギーロスの削減など、さらなる省エネ活動を推進します。



VOC(揮発性有機化合物)排出量の低減

当社は布とゴムの貼り合わせを行う製品があり、その際に使用するゴム糊には、VOCを使用しています。最終製品からは、VOCを除去することになりますが、密閉型の設備の導入や溶剤回収装置、排気ダクトの改善によってVOCが大気に排出される量を削減しています。また、溶剤回収装置で回収した溶剤の再利用を行っています。

VOC排出量については、2000年度比50%以上の削減を目標としており、2019年度に引き続き2020年度も達成しています。2021年度も目標達成をめざして活動していきます。



環境への取り組み

有機溶剤の回収

当社では、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を2001年に取得しました。ゴムの加工製造を行うメーカーとして万全の環境対策に力を入れています。

2017年に新たな溶剤回収装置を導入し、新規有機溶剤の購入量を大きく削減しています。他にも、環境にやさしく、人々の安心・安全に寄り添う製品を提供しています。



環境負荷物質の不利用化、低減活動

環境負荷物質の使用量削減の取り組みとして、禁止物質、削減物質、管理物質を特定して禁止物質の不利用化・削減活動を進めています。禁止物質の一部については現在も使用しているものがありますが、代替材料を検討し、お客様の変更承認を得て、不利用化を進めています。

このような取り組みを通じて、環境に配慮した材料設計に基づいた製品をお客様に提供しています。

不利用化を進めている当社指定の禁止物質

- RoHS2指令**
 - 鉛(金属鉛)
 - PBDE(ポリ臭化ジフェニルエーテル)
 - DEHP(フタル酸ジ-2-エチルヘキシル, DOP)
 - DBP(フタル酸ジ-n-ブチル)
- 鉛化合物**(EU納入のお客様より不利用の要請あり)
- PRTR 特定第1種**
 - ニッケル化合物
- お客様より要請のあった化学物質**

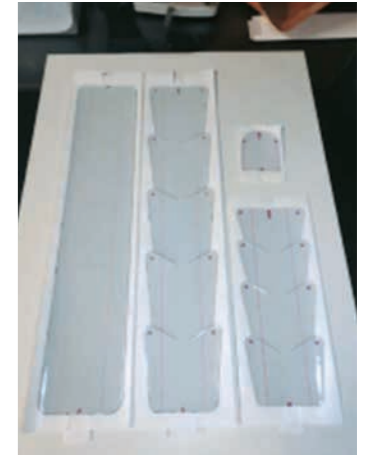
次世代エネルギーへの転換

風力発電ブレード保護シート

カーボンニュートラル、脱炭素化が叫ばれる中、日本でも再生可能エネルギーへのシフトチェンジが進んでいます。石炭火力発電から脱却し、発電量に占める再生可能エネルギーのシェアを、現在の18%から50%に引き上げる計画が進んでおり、いま風力発電に注目が集まっています。しかしながら、風力発電は定期的なメンテナンスを要し、1基あたり1,000万円以上のコストがかかるといわれています。

当社の風力発電機用ブレード保護シートは、風力発電機のブレード表面を、飛来物や雹、砂などとの衝突による損傷から長期にわたり保護し、メンテナンス周期を延ばすことが可能です。

今後も持続可能な社会の実現および社会課題の解決に向けて製品の開発を続けてまいります。



Column

渋谷地下街に”Watt Satt”を設置しました！

渋谷地下街株式会社にて、渋谷地下街の災害発生時の対策として、非常用マグネシウム空気電池”Watt Satt”を採用していただきました。証明写真機にWatt Satt用の専用スペースを確保し、設置をしていただいています。これにより、渋谷地下街を利用される多くの方に非常時や停電時の連絡手段の確保をしていただけます。今後も、皆様に安心をお届けするために、活動してまいります。



地域社会とともに

海ごみゼロプロジェクトin南相馬

SDGs「海の豊かさを守ろう」の活動の一環として、南相馬市海岸において「海ごみゼロウィークinふくしま」が実施され、原町工場従業員がご家族と一緒に参加しました。2021度は6月と9月に実施され、それぞれ100名近い従業員が参加しました。

約1時間の清掃活動で、準備していた2トラック1台分強のゴミが集まり、きれいな砂浜がよみがえりました。家族で環境問題を考えるきっかけとして、今後も継続して参加していきます。



南相馬市鎮魂復興市民植樹祭/鎮守の森のプロジェクト

当社は、防災・減災と環境保全に対する取り組みとして、「公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト」の活動に協賛しています。同プロジェクトでは、東日本大震災で被害を受けた東北に、災害に強い森を作る活動をしており、その一つである南相馬市鎮魂復興市民植樹祭に参加しています。



周辺高等学校への総合学習支援

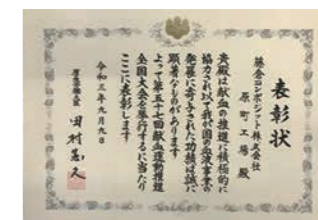
当社では、次世代を担う子供たちに、地域産業を通して夢や希望を届けたいと願い、地域の総合学習支援活動を行っています。2021年度はさいたま市内の高校生のインターンシップの受け入れや、就業体験会などへ参加しました。



高校生による就業体験(さいたま市)

献血活動

毎年2回、赤十字血液センターに来社いただき、従業員の献血活動を推進しています。社会貢献とともに、「自分の協力が誰かの命の支えとなる」といった従業員の意識向上にもつながっています。本年度、原町工場が長年の献血活動の功績をたたえられ、厚生労働大臣より表彰状をいただきました。



工業団地一斉美化活動

毎年、事業所周辺の清掃を行っています。岩槻工業団地では、2021年度は5月と12月の2回行われ、12月には50名の従業員が参加しました。従業員の環境保全意識向上に加えて、地域への社会貢献にもつながっています。



Column

さいたま市オープンファクトリー2021

各産業の発展および企業の活性化につなげることを目的とした「彩の国オープンファクトリー2021」に参加しました。今年はコロナ禍のためオンライン開催となりましたが、救命いかだの投下試験の様子などを紹介しました。

当社は、その他多くの環境を支え、人々の暮らしに豊かさを生み出し、そしてよりよい環境へと進歩し続けています。自動車のエンジンに使用される重要部品から、ゴルフのカーボンシャフトまで、社会からの要求を的確にとらえて、多岐にわたる製品をお客様に提供しています。



お客様・お取引先様とともに

「飛鳥II」救命いかだ膨脹訓練実施

2021年7月12日に日本船籍最大のクルーズ客船「飛鳥II」において救命いかだの膨脹訓練を行いました。「飛鳥II」には当社製膨脹式救命いかだが搭載されていますが、今回、郵船クルーズ様とともに船員の皆様へ操作方法の説明などを実施しました。



さいたま市リーディングエッジ企業認証

この度さいたま市が推進している「リーディングエッジ企業」に認証されました。「さいたま市リーディングエッジ企業」とは、さいたま市に拠点のある企業で、独創性・革新性に優れた技術を有する研究開発型ものづくり企業に与えられる、先端ものづくり企業の称号です。現在さいたま市内では、当社を含め35社が「さいたま市リーディングエッジ企業」として認証されています。

技術で世界にサプライズを



従業員とともに

健康経営への取り組み

当社では2020年4月より、健康経営の推進を行っています。従業員の健康を重要な経営資源の一つであると考え、個人の自発的な健康活動に対して積極的な支援を行い、組織的な健康活動の推進をはかっています。会社、健康保険組合、労働組合が一丸となって、従業員の健康と、経営理念にある『いきいきコミュニケーション』の構築をめざしています。



スポーツ推進企業認定取得

当社では、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業として、スポーツ庁より2021年の「スポーツエールカンパニー」に認定されました。「スポーツエールカンパニー」は、スポーツ庁が、運動不足である「働き盛り世代」のスポーツの実施を促進し、スポーツに対する社会的機運の醸成をはかることを目的として、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を認定するもので、2017年から開始されました。当社は今年で3年連続の認定となりました。



教育研修プログラム

従業員一人ひとりが能力を高め、仕事に意欲的に取り組み、コンプライアンス規範を順守しながら、経営理念、事業理念、グループビジョン、グループ基本戦略、行動基準に基づいて主体的に物事をとらえ、与えられた課題に対して様々な角度から解決に導ける人を育成するため、教育制度の充実に力を入れています。教育体系は階層別教育と機能別教育の2つに分け、階層別教育では部門を横断し階層ごとの役割認識や対人力の向上をめざし、機能別教育は職務遂行上必要な専門知識の習得を目的として実施しています。その他、自己啓発を支援するため、通信教育などで、事前インプット及び自己課題の解決をめざしています。

階層	テーマ	事前インプット	階層別研修	フォロー施策	目的別研修
MGR	管理職としての実践力の強化		MGR研修(2日目)		
監督職	管理職にむけた準備(意識と対人関係能力)		監督職研修 ※中級法務研修含む		
中堅	中核人材としての職務遂行力の更なる強化	通信教育(自己啓発)	中堅研修 ※中級法務研修含む	プレリーダー研修	選択型 & 目的別教育 ・語学研修 ・財務研修 ・マーケティング ・営業プロセス ・マネジメント
4~5年目	ベーススキルの習得		5年目研修 ※中級法務研修含む	3年目研修	
1~3年目	主体性の基軸作り		新入社員研修(集合研修) ※中級法務研修含む	ブラッシュアップ研修	

- 階層別研修(昇等級時)
- 新入社員研修(コンプラ研修含む)
- ブラッシュアップ研修(新入社員研修半年後)
- 入社3年目フォロー研修
- 5年目研修(コンプラ研修含む)
- 中堅研修(コンプラ研修含む)
- プレリーダー研修
- 監督職研修
- MGR研修
- 目的別研修(語学・財務・マーケティング・営業プロセスマネジメント他)

Column

岩槻工場ガーデニングクラブ

「安全で、人と環境にやさしい職場づくり」のため、岩槻工場ガーデニングクラブが発足しました。各職場より有志が集まり、工場内それぞれの場所に、思い思いの花壇をつくって従業員の目を日々楽しませてくれています。岩槻工場にお越しの際は、ぜひ素敵なお花壇をご鑑賞ください。



労働安全衛生

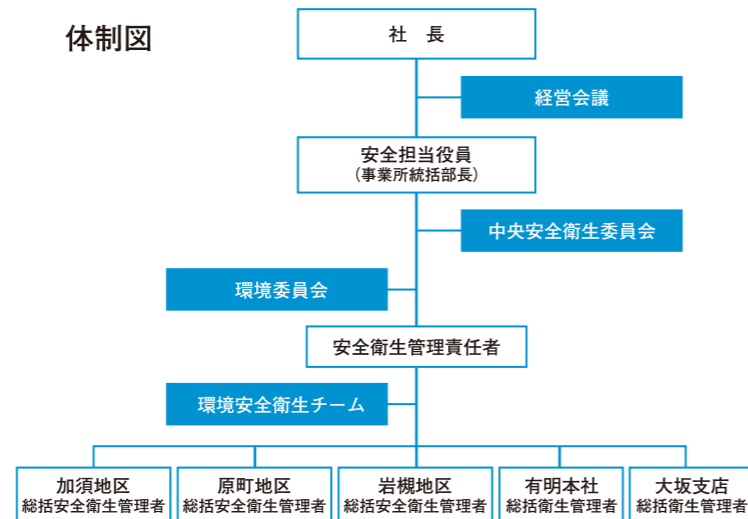
労働安全衛生基本方針

当社では、「安全確保が人間尊重の理念から全ての活動に優先するものであり、健康が企業活動の基本である」という労働安全衛生基本方針のもと、事業運営を行っています。

労働安全衛生マネジメント

当社では、働く人の労働に関連する負傷と疾病を予防し、心身ともに安全で健康的な職場を提供することを目標としています。

そのため、労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001:2018の認証を取得、活用し、PDCAサイクルを回して継続的な改善を実施しています。また、労働安全衛生に関する法的およびその他の要求事項を特定、順守し、結果を評価、適切な改善に繋げています。



緊急事態対応の訓練

防災訓練

大規模災害を想定した防災訓練（夜間を含む）を実施し、質的向上をはかり、BCP（事業継続計画）に繋げています。防災訓練では、実際に緩降器オリローや消火器訓練などの使用訓練を行い、緊急事態に備えています。



メンタルヘルス研修

従業員がいきいきと働く職場環境づくりのために、職場リーダー向けに、メンタルヘルスラインケア研修を実施しています。メンタルケアの重要性や職場管理者の役割を再認識することで、従業員の不調に早期に気づき対応することが出来るよう取り組んでいます。



安全衛生への取り組み

災害予防活動の推進

フォークリフト研修

フォークリフトの運転業務従事者には、フォークリフトの災害事例や関係法令などの座学と、運転基本操作の実技による安全衛生教育講習を実施しています。



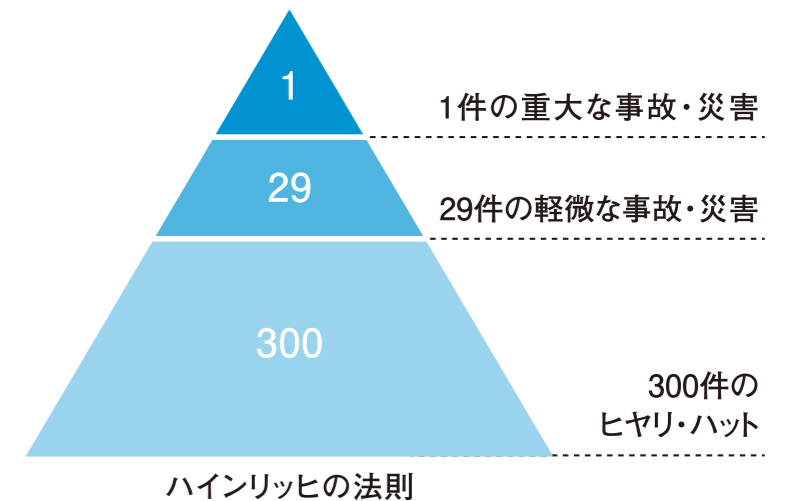
安全教育・巻き込まれ体感器

ロールなど回転物による巻き込まれの災害を防ぐため、「巻き込まれ体感器」によって危険に対する意識を高める訓練を行っています。



KY（危険予知）活動

「1件の重大事故の下には29件の軽度の事故があり、その下には300件のヒヤリハットがある」というアメリカ人の安全技師が発表した「ハインリッヒの法則」から、当社では毎年7月を強化月間とし、全部門よりヒヤリハットの吸い上げを行っています。各工場の安全衛生推進委員会では、報告されたヒヤリハットを分析・フォローし、安全衛生に関する潜在リスクの低減に取り組んでいます。2021年度は全社で678件のヒヤリハットの報告がありました。



改善前

改善後

海外ネットワーク

付加価値の高い製品群を、グローバルに提供できる体制の整備に注力しています。

生産拠点の海外シフト、外国企業との連携の加速、インターネット上のマーケットプレースの活況、中国市場の拡大など、国内製造業の事業環境は急変しています。こうした変化を見据えながら、当社は世界中のお客様に品質と価格の両面で満足いただける、付加価値の高い製品をグローバルに提供することを目標に、海外現地法人を充実させて、お客様にいっそう密着した体制を整備しています。

